

事業に対する評価

「支援が課題解決や目標達成にどのくらい役立ったか」

※ 助成金を受領した人のみの数値

支援の内容全体に対する5段階評価平均 **4.77**

総合的評価

「同様の支援が継続する場合、また応募したいか」

「はい」…**94.1%** 「いいえ」…**0%** 「わからない・無回答」…5.9%

「行政が直接行う支援と中間支援団体を介した支援で違いを感じる点」

※ 複数回答可

「より自分の課題や困りごとに即した支援内容だった」…**54.2%**

本事業スキームの優位性

① 金銭以外の側面的支援に多大な効果

助成金以外の制作支援・相談対応・講座などを評価する声が多く、「アーティストの実態に即したきめ細かい支援」という本旨を全うすることができたと考えられる。

② 支援や情報発信の自由度・多様性

多様な支援や情報発信が行われることで、自身に適した支援内容を選択できる点や、これまで支援制度を利用しなかったアーティストが対象となった点が評価されており、支援領域・対象の拡大につながっていることが見て取れる。

③ 関係者間のネットワーク創出

中間支援団体同士の広域連携、中間支援団体等とアーティストの持続的な関係構築、支援を受けたアーティスト同士のネットワークなど、副次的効果として関係者間のつながりが生まれ、本制度の有効性を高めている。

④ 社会貢献・他分野連携などの可能性の拡大

中間支援団体・アーティスト双方から、文化芸術が地域に果たす役割や社会貢献、他分野連携、支援側への参加意欲などに言及する声は複数あり、文化芸術の社会的効用を本事業が間接的に拡張し得ることが示唆された。

「金銭的支援の多寡」と「支援への5段階評価」の関係

金銭的支援なし	10万円未満	10万円以上20万円未満	20万円以上
4.25	4.70	4.75	4.86

金銭的支援がある方が高評価だが**ない場合も相当程度の評価**を得ている。  
 「金銭的支援を受けた人」の中では…  
 金銭的支援の評価平均 **4.46** < 金銭以外の支援の評価平均 **4.69**

「これまで公的機関の支援制度を利用したことがない」  
**29.4%** (10/34名)  
 4人に1人以上が初めて支援制度を利用。また、うち4名が応募しやすかった。「抵抗感が減った」という趣旨の自由記載をしている。

「支援が課題解決や目標達成にどのくらい役立ったか」という質問に対し、「活動の幅が広がった」「新しい人脈ができた」の少なくとも一方を回答した人 **64.7%** (22/34名)

アンケートに回答したアーティスト34名のうち**11名**が、自身の活動や文化芸術そのものの**地域・社会に果たす役割**や、**他のアーティストへの支援**について言及している。

本事業スキームの課題

① 十分な補助期間や補助額の確保

中間支援団体等・アーティストの双方から活動期間や補助額の不十分さを指摘する声は複数あり、また中間支援団体からは、今後の事業継続・発展に向けた人材確保・育成などの観点から継続的な支援が求められている。

② 緊密な連携のための連絡・運営体制

事務局・助言を行う委員・中間支援団体等との協働体制が評価される一方、円滑なコミュニケーションを担う連絡体制の未整備や事務局のマンパワー不足が指摘されており、改善を要する。

③ 制度運営側における専門性の確保

持続的な制度運営のため、特に各支援事業に対する助言や評価、制度に関するわかりやすい情報発信といった観点で、運営側に専門的な知見を有する人材を登用する必要性が指摘されている。

④ 各支援における公平性・適正性の確保

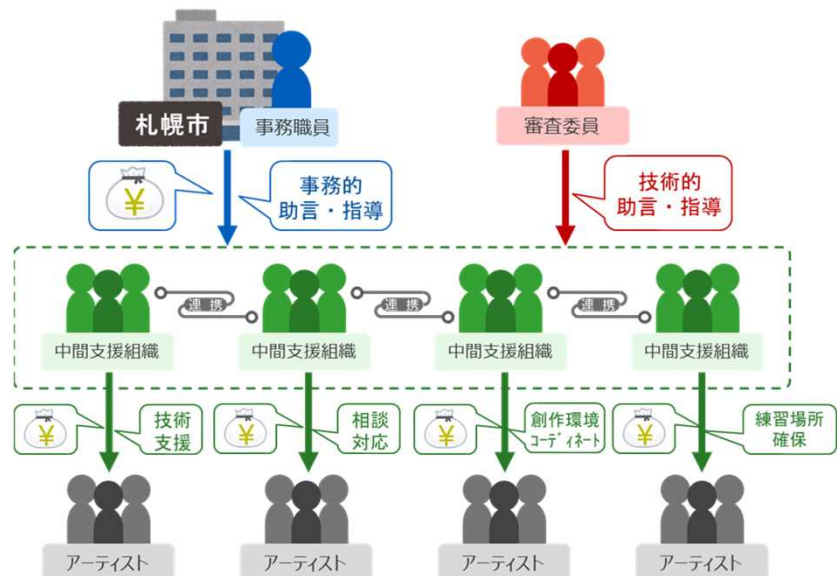
中間支援団体等が市から補助を受けてアーティスト等へ再配分を行うという事業スキームの性質上、中間支援団体に公平性・透明性が強く求められる一方で、そのためのノウハウが必ずしも十分ではない場合があり、中間支援団体からも助言を求める声がある。

制度上の補助対象期間：8月1日～翌2月28日（7か月）  
 各団体の実質支援期間（支援対象の募集や報告会などを除く期間）  
 ・ AISプランニング：10月上旬～翌1月中旬（約3ヶ月）  
 ・ HAUS：9月中旬～翌2月末（約5ヶ月半）  
 ・ PROJECTA：10月下旬～翌2月上旬（約4ヶ月）  
 ・ 北海道演劇財団：11月上旬～翌2月末（約4ヶ月）

採択団体への質問項目「制度への所感：改善すべき点」において、**4団体のうち3団体**が、「事務局や委員とより密に打ち合わせや相談ができるようにしてほしい」「連絡・情報共有をより効率的にしてほしい」の2つを選択。  
 逆に、「事務局や委員との打ち合わせが多すぎるので減らしてほしい」を選択した採択団体はなかった。

AISプランニング…  
 「新たな試みを評価するには独自の評価基準を提示する必要があり、それを一般的な理解に落とし込むためには専門的な知見が必須」「申請書の記述に長けたアーティストが採択される傾向」  
 HAUS…  
 「税金を原資とする以上、瑕疵がないよう慎重な実行に努めたが、専門性が高い部分もあり、よりアドバイスを請うべきだったかもしれない」  
 北海道演劇財団…  
 「PD・POを担う人材を外都府から登用し、選出団体の数も増加させて、本事業を継続していくことが望ましい」

令和4年度の実施イメージ



今後の方向性イメージ（事務局案）

事業目的 = 「札幌で培われた文化芸術の社会・経済への還元」

札幌に集積する多種多様なアーティストや文化芸術団体の活動を他分野を含む多様な領域へ波及させることで、アーティストにとっては**活躍の場が拡大**するとともに**活動の継続性が担保**され、地域社会にとっては**アーティスト等の創造性がもたらす恩恵**が得られるというWin-Winの関係を築くことを目指す。

